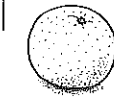


白いぼうし(1)

「これは、レモンのおいですか。」
ほりばたで乗せたお客のしんしが、話しかけました。

「いいえ、夏みかんですよ。」

信号が赤なので、ブレーキをかけてから、運転手の松井さんは、にこにこして答えました。



今日は、六月の初め。

夏がいきなり始まったような暑い日です。松井さんもお客も、白いワイシャツのそでを、うでまでたくし上げていました。

「ほう、夏みかんでは、こんなににおうものですか。」

「もぎたてなのです。きのう、いなかのおふくろが、速達で送ってくれました。においまでわたしにとどけたかったのです。」

「ほう、ほう。」

②「あまりうれしかったので、いちばん大きいのを、この車にのせてきたのですよ。」

信号が青になると、たくさん車の車がいつせいに走りだしました。その大通りを曲がって、細いうら通りに入った所で、しんしはおりていききました。

(光村図書 国語 4年(上) かがやき あまん きみこ)

上の文章を読んで、答えましょう。

(一) 松井さんの職業は何でしょうか。

(二) 夏がいきなり始まったような暑い日だということは、松井さんとお客のどんな様子でわかりますか。

(三) ①はだれの言葉で、この車にのせてきたとは、何をのせてきたのでしょうか。

何をのせてきたか

上の文章を読んで、答えましょう。

(一) 車がひいてしまつわい。とありますが、何をひいてしまつのでしょうか。

(二) ⑦に入る言葉を、 から選んで書きましょう。

けれど、また
そして

(三) 何かとありますが、何が飛び出したのでしょうか。

(四) そんなは、松井さんのどんな様子でしょう。

(五) もんしろちようは、どうなったのでしょうか。

白いぼうし(2)

アクセルをふもうとしたとき、松井さんは、はっとしました。

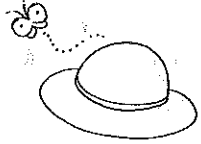
「おや、車道のおんなすぐそばに、小さなぼうしが落ちてゐるぞ。風がもうひとふきすれば、車がひいてしまつわい。」

緑がゆれているやなぎの下に、かわいい白いぼうしが、ちょこんと置いてあります。松井さんは車から出ました。

⑦「ぼうしをつまみ上げたたん、ふわっと何かが飛び出しました。」

「あれっ。」

もんしろちようです。あわててぼうしをふり回しました。そんな松井さんの目の前を、ちようはひらひら高くまい上がると、なみ木の緑の向こうに見えなくなつてしまいました。



(光村図書 国語 4年(上) かがやき あまん きみこ)

白いぼうし(4)

名前

車にもどると、おかっぱのかわいい女の子が、ちょこんと後ろのシートにすわっています。

「道にまよったの。行っても行っても、四角い建物ばかりだもん。」

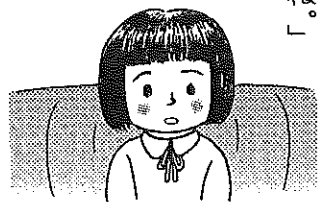
つかれたような声でした。

「ええと、どちらまで。」

「ええ。——ええ、あの、あのね、菜の花横町ってあるかしら。」

「菜の花橋のことですね。」

エンジンをかけたとき、遠くから、元気そうな男の子の声が近づいてきました。



(光村図書 国語 4年(上) かがやき あまん きみこ)

白いぼうし(3)

名前

「はあ、わざわざここに置いたんだな。」

ぼうしのうらに、赤いししゅう糸で、小さくぬい取りがしてあります。

「たけやまようちえん」

たけの たけお

小さなぼうしをつかんで、ため息をついている松井さんの横を、太ったおまわりさんが、じろじろ見ながら通りすぎました。

「せっかくのえものがいなくなっていたら、この子は、どんなにがっかりするだろう。」

ちよっとの間、かたをすぼめてつつ立っていた松井さんは、何を思いついたのか、急いで車にもどりました。

運転席から取り出したのは、あの夏みかんです。まるで、あたたかい日の光をそのままそめ付けたような、見事な色でした。

すっぱい、いいにおいが、風で辺りに広がりました。

松井さんは、その夏みかんに白いぼうしをかぶせると、飛ばないように、石でつばをおさえました。



(光村図書 国語 4年(上) かがやき あまん きみこ)

上の文章を読んで、答えましょう。

(一) 「はあ、わざわざここに置いたんだな。」とありますが、何が置いてあったのでしょうか。

(二) 小さなぼうしをつかんで、ため息をついている松井さんは、どんなことを思ったのでしょうか。

(三) 急いで車にもどった松井さんは、何を思いついたのでしょうか。

(四) ぼうしが飛ばないように、松井さんはどうしましたか。

上の文章を読んで、答えましょう。

(一) 後ろのシートにすわっているのは、どんな子でしょうか。

(二) 上の文中にある、四つの「」は、それぞれだれが言ったのでしょうか。

松井さんには (ま) 女の子には (お) と書きましょう。

(三) 菜の花横町のことを、松井さんはどこで言ったでしょう。

(四) エンジンをかけたとき、何が近づいてきたでしょう。

白いぼうし(5)

「あのぼうしの下さあ。お母ちゃん、本当だよ。本当のちようちよが、いたんだもん。」

水色の新しい虫とりあみをかかえた男の子が、エプロンを着けたままのお母さんの手を、ぐいぐい引っばってきます。

「ぼくが、あのぼうしを開けるよ。だから、お母ちゃんは、このあみでおさえてね。あれっ、石がのせてあらあ。」

客席の女の子が、後ろから乗り出して、せかせかと言いました。

「早く、おじちゃん。早く行ってちょうだい。」

松井さんは、あわててアクセルをふみました。やなぎのなみ木が、みるみる後ろに流れていきます。



(光村図書 国語 4年(上) かがやき あまん きみこ)

上の文章を読んで、答えましょう。

(一) 男の子がかかえていたものは何ですか。

(二) 男の子がお母さんにたのんだことは何ですか。

(三) 女の子がいそいでいる様子がわかるところを書き出しましょう。

(四) 車が速く走っていることがわかる文を書きましょう。

白いぼうし(6)

⑦「お母さんが、虫とりあみをかまえて、あの子がぼうしをそうつと開けたとき——」と、ハンドルを回しながら、松井さんは思います。①「あの子は、どんなに目を丸くしただろう。」

すると、ぽかっと口を〇の字に開けている男の子の顔が、見えてきます。

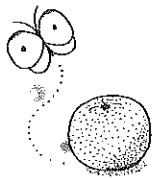
⑧「おどろいただろうな。まほうのみかんとと思うかな。なにしろ、ちようが化けたんだから——」。

⑨「ふふふっ。」

ひとりで笑いがこみ上げてきました。でも、次に、

「おや。」

松井さんはあわてました。バックミラーには、だれもうつっていません。ふり返っても、だれもいません。



上の文章を読んで、答えましょう。

(一) ⑦⑧のうちで、頭の中で思いうかべたことではないのはどれですか。記号を書きましょう。

(二) 目を丸くを正しく使った文に○をしましょう。

(三) 弟の入選の知らせに、父は目を丸くしておどろいた。

(四) おじいさんは、まこの顔を見ると目を丸くしてよろこぶ。

(五) おいしいものを目を丸くして食べる。

(六) どうしてまほうのみかんなのですか。

(七) 「おや。」と松井さんがあわてたのは、なぜですか。

白いぼうし(7)

「おかしいな。」
松井さんは車を止めて、考え考え、まどの外を見ました。
そこは、小さな団地の前の小さな野原でした。

白いちょうが、二十も三十も、いえ、もっとたくさん飛んでいました。クローバーが青々と広がり、わた毛と黄色の花の交ざったたんぽぽが、点々のもようになつてさいています。その上を、おどるように飛んでいるちようをぼんやり見ているうち、松井さんには、こんな声が聞こえてきました。

「よかったね。」

「よかったよ。」

「よかったね。」

「よかったよ。」

それは、シャボン玉のはじけるような、小さな小さな声でした。

車の中には、まだかすかに、夏みかんのにおいが残っています。

(光村図書 国語 4年(上) かがやき あまん きみこ)



上の文章を読んで、答えましょう。

(一) アそことは、どこのことですか。

(二) 小さな野原の様子が書いてある文章の、最初と最後の文字を七字ずつ書き出しましょう。
(、。も一字分とします)

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

(三) ① ちょうをぼんやり見ている松井さんに聞こえてきた声は、何と言っていましたか。

② それは、どんな声でしたか。

一つの花(1)

「一つだけちょうだい。」
これが、ゆみ子のはつきり覚えた最初の言葉でした。

まだ戦争のはげしかったころのことです。
① そのころは、おまんじゅうだの、キャラメルだの、チョコレートだの、そんな物はどこへ行ってもありませんでした。おやつどころではありませんでした。食べる物といえは、お米の代わりに配給される、おいもや豆やかぼちゃしかありませんでした。

毎日、てきの飛行機が飛んできて、ばくだんを落としていきました。

町は、次々に焼かれて、はいになっていきました。



上の文章を読んで、答えましょう。

(一) アこれがさす文を書きましよう。

(二) ① そのころについて、答えましよう。
② そのころとは、いつのことでしょう。

② 食べる物は、どんな物だったのでしょうか。

(三) ① 町の様子について、答えましよう。
② 町は、どうなっていましたか。

② それはなぜですか。

一つの花(2)

ゆみ子は、いつもおなかをすかしていたのでし
ようか。ご飯のときでも、
おやつときでも、もっ
ともっとと言って、いく
らでもほしがるのでした。

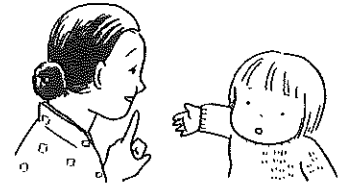
すると、ゆみ子のお母さんは、

「じゃあね、一つだけよ。」

と言って、自分の分から一つ、ゆみ子に分
けてくれるのでした。

「一つだけ——。一つだけ——。」

と、これが、お母さんの口ぐせになってし
まいました。ゆみ子は、知らず知らずのう
ちに、お母さんのこの口ぐせを覚えてしま
ったのです。



〔光村図書 国語 4年(下) はばたき 今西 祐行〕

上の文章を読んで、答えましょう。

(一) もっともっとと言って、いくらでもほしがるのは、
だれですか。

(二) 「じゃあね、一つだけよ。」と言って、お母さんはど
うしましたか。

(三) お母さんの口ぐせについて答えましょう。

① どんな口ぐせですか。

② 口ぐせを覚えてしまったのは、だれですか。

上の文章を読んで、答えましょう。

(一) ア①は、だれが言った言葉でしょう。

ア

①

(二) ア② 深いため息の「深い」の意味と同じものに○をつ
けましょう。

() 深い考え

() 海が深い

() 深いみどり色

(三) ①の言葉から、お父さんはどんな心配をしている
のでしょうか。(二つ○をしましょう。)

() みんなちようだい、山ほちようだいと言
って、よくばらないかな。

() 喜びなんて、一つだってもらえないかもし
れないな。

() いったい、大きくなって、どんな子に育つだろう。

() この子は、一生、いも、にぎり飯、かぼち
やしか食べられないのかな。

一つの花(3)

④「この子は、一生、みんなちようだい、山ほ
ちようだいと言って、両手を出すことを
知らずにすすかもしれないね。一つだけ
のいも、一つだけのにぎり飯、一つだけの
かぼちのにつけ——。みんな一つだけ。
一つだけの喜びさ。いや、喜びなんて、一
つだってもらえないかもしれないんだね。
いったい、大きくなって、
どんな子に育つだろう。」
そんなとき、お父さんは、決まってゆみ子
をめちゃくちゃに高い高いするのでした。



〔光村図書 国語 4年(下) はばたき 今西 祐行〕

一つの花(4)

名前

それから間もなく、あまりじょうぶでないゆみ子のお父さんも、戦争に行かなければならない日がやって来しました。

お父さんが戦争に行く日、ゆみ子はお母さんにおぶわれて、遠い汽車の駅まで送っていきました。頭には、お母さんの作ってくれた、わた入れの防空頭巾をかぶっていきました。

お母さんのかたにかかっているかばんには、包帯、お薬、配給のきつぷ、そして、大事なお米で作ったおにぎりが入っていました。



(光村図書 国語 4年(下) はばたき 今西 祐行)

上の文章を読んで、答えましょう。

(一) お父さんが戦争に行く日、駅まで送っていったのはだれですか。

(二) おぶわれているゆみ子は、頭に何をかぶっていましたか。

(三) お母さんのかたにかかっているかばんに入っている物を、四つ書きましょう。

一つの花(5)

名前

ゆみ子は、おにぎりが入っているのをちやあんと知っていましたので、「一つだけちょうだい、おじぎり、一つだけちょうだい」と言って、駅に着くまでにみんな食べてしまいました。お母さんは、戦争に行くお父さんに、ゆみ子の泣き顔を見せたくなかったのでしょうか。



駅には、ほかにも戦争に行く人があって、人ごみの中から、ときどきばんざいの声が起こりました。⑦、別の方からは、④

勇ましい軍歌が聞こえてきました。

ゆみ子とお母さんのほかに見送りのないお父さんは、プラットホームのはしの方で、ゆみ子をだいて、そんなばんざいや軍歌の声に合わせて、小さくばんざいをしていたり、歌を歌っていたりしていました。⑤、戦争になんか行く人ではないかのように。

上の文章を読んで、答えましょう。

(一) だれが、何を、駅に着くまでにみんな食べてしまったのでしょうか。

(二) 人ごみの中から、何が聞こえてきたのでしょうか。二つ書きましょう。

(三) 人ごみという言葉から、駅のどんな様子がわかるでしょう。

(四) ⑦⑦の□に入る言葉を、□から選んで書きましょう。

⑦ () ④ ()
しかし、まるでまた、たえず

(五) ゆみ子たちは、駅のどこにいますか。

一つの花(6)

ところが、いよいよ汽車が入ってくる
というときになって、またゆみ子の「一
つだけちょうだい」が始まったのです。
⑦「みんなおやりよ、母さん。おにぎりを
——」。

お父さんが言いました。

④「ええ、もう食べちゃったんですの——
ゆみちゃん、いいわねえ。お父ちゃん、
兵隊ちゃんになるんだって。ばんざあ
いって——」。

お母さんは、そう言ってゆみ子をあやし
ましたが、ゆみ子は、とうとう泣きだし
てしまいました。

「一つだけ。一つだけ。」
と言って。



(光村図書 国語 4年(下) はばき 今西 祐行)

上の文章を読んで、答えましょう。

(一) いよいよ汽車が入ってくるというときになって、
何が始まったのでしょうか。

(二) この物語の作者は、なぜ「おにぎりをみんなおやり
よ、母さん。」ではなく、⑦の言い方にしたのでしょう。

(三) ① ④は、だれの言葉ですか。

② その言葉を聞いたゆみ子は、どうしましたか。

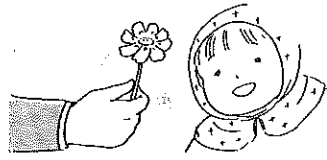
一つの花(7)

お母さんが、ゆみ子を一生けんめいあ
やしているうちに、お父さんが、ぶいと
いなくなってしまうました。
お父さんは、ブラットホームのはしっ
ぽの、ごみすて場のような所に、わすれ
られたようにさいていたコスモスの花を
見つけたのです。あわてて帰ってきたお
父さんの手には、一輪のコスモスの花が
ありました。

「ゆみ。さあ、一つだけあげ
よう。一つだけのお花、大
事にするんだよう——」。

ゆみ子は、お父さんに花を
もらうと、キャッキャッと足
をばたつかせて喜びました。

お父さんは、それを見てに



っこり笑うと、何も言わずに、汽車に乗
って行ってしまいました。ゆみ子のにぎ
っている、一つの花を見つめながら——。

上の文章を読んで、答えましょう。

(一) お父さんが、ぶいといなくなってしまうたのは、
どうしてでしょう。

(二) あわてて帰ってきたお父さんは、ゆみ子に何と言っ
たのでしょうか。

(三) それとは、何を表しているのでしょうか。

(四) イの文章を、一つの文に書きかえましょう。

(光村図書 国語 4年(下) はばき 今西 祐行)

一つの花(8)

それから、十年の年月がすぎました。

ゆみ子は、お父さんの顔を覚えていません。自分にお父さんがあったことも、あるいは知らないのかもしれない。



⑦、今、ゆみ子のとんとんぶきの小さな家は、コスモスの花でいっぱいに包まれています。

①、そこから、ミシンの音が、たえず速くなったたり、おそくなったたり、何かお話をしているかのように、聞こえてきます。それは、あのお母さんでしょうか。

(光村図書 国語 4年 下) はばたき 今西 祐行

上の文章を読んで、答えましょう。

(一) ア お父さんがあったことも、あるいは知らないのかもしれません。の意味は、次の三つのうちどれが正しいでしょう。

() お父さんがいたことを、ひょっとしたら、知らないのかもしれません。

() お父さんがいたことを、よく知っているのかもしれません。

() お父さんがいたのかわかなかったのか、知らないのかわかりません。

(二) ア ①の□に入る言葉を、□から選んで書きましょう。

また ・ まるで ・ ても ・ そして

(三) イ そこは、どこのことでしょうか。

(四) 何かお話をしているかのように聞こえてきたのは、何の音ですか。

上の文章を読んで、答えましょう。

(一) ミシンの音がしばらくやんだのは、どうして(何のため)ですか。

(二) ミシンの音がまたいそがしく始まったことで、どんなことがわかりますか。

(三) ① 町の方へ行ったのは、だれですか。

② それは、何のために行ったのでしょうか。

一つの花(9)

「母さん、お肉とお魚とどっちがいいの。」と、ゆみ子の高い声が、コスモスの中から聞こえてきました。すると、ミシンの音がしばらくやみましました。やがて、ミシンの音がまたいそがしく始まったとき、買い物かごをさげたゆみ子が、スキップをしながら、コスモスのトンネルをくぐって出てきました。そして、町の方へ行きました。今日は日曜日、ゆみ子がお母さんになつて、お昼を作る日です。



(光村図書 国語 4年 下) はばたき 今西 祐行

